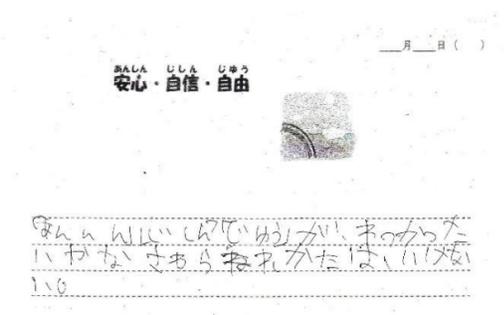


2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2021/11/9

団体名	一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会	活動タイトル	児童養護施設周辺地域のCAPの実施				
<b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b>			<b>■ 活動風景</b>				
●望ましい社会状況(ビジョン)	<p>私たちがかけがえのない「人権文化のまちづくり」とは、人が人として等しく尊重され、命がかけがえのないものとして大切にされ、人と人とのつながりが育まれる社会づくりだと考えています。当協会の前身は「豊中市同和対策事業促進協議会」でしたが、日本社会の長い歴史の中で形成された部落差別は、今日も根強く残されています。また、性別、年齢、障がいの有無、人種・民族的背景などによるあらゆる形態の差別、優位な力関係を背景とした「暴力」（虐待、いじめ、ハラスメント）もまた日常生活の中で起こっています。「人権文化のまちづくり」を実現するためには、子どもおとなも「安心して、自信を持って、自由に生きる」という人間としての基本的な人権は、奪うことのできない権利であるという理解が広がっていく必要があります。さらに、その理解を社会的なつながりの中で日常的に行動に移していく方法も一人一人が獲得していることが欠かせません。</p>		CAPおとな向けワークショップの様子				
●団体の社会的役割(ミッション)	<p>当団体の社会的役割は、子どもを含め多様な市民に向けて、「人権文化のまちづくり」を実現するために次のような取り組みを行うことです。また、取り組みを通して、子どもや市民の参加を促進していくことです。</p> <p>1) 人権情報啓発事業として、現代社会に生起する人権課題を取り上げて、市民が多面的に思考することを促進するため、座学やワークショップなど方法にも留意します。ここでも、子どもの人権を取り上げていきます。</p> <p>2) 相談事業として、声のあげにくい市民がアクセスしやすい相談窓口になるようにします。</p> <p>3) 子どもの居場所・学習支援事業では、子どもの置かれた環境や子どもの声に耳を傾けて、子どものエンパワメントにつながる事業を進めています。協会は地域交流事業も担っています。</p>						
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい人的資源：資金調達及びマネジメントスキルに長け、関係機関と連携を担える常勤スタッフが複数存在すること。多様な市民が事業に関われること。</li> <li>●望ましい物的資源：大人が憩える居場所、子どもの声に耳を傾けられる安心で安全なスペース。また、広報活動に必要な様々な電子媒体などの機材が備わっていること。</li> <li>●望ましい活動資金：専門性の高い外部スタッフと連携するにあたり必要な資金を保持していること。</li> <li>●望ましい情報：子どもを取り巻く問題に対して最先端の情報にアクセスできること。同時に、職員が研修等を通して、最先端の学びを自分のものにして協会に浸透させていけるようになる。</li> </ul>						
<b>■ 活動報告</b>			<b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b>				
<p><b>1.CAPおとな向けワークショップの実施</b> CAPプログラムを子どもに届けた時に大事になるのは、おとなが「子どもの声」を聴くことなので、市民や教職員、協会子ども事業スタッフ向けに本事業の理解を促進するため、市民向けワークショップを実施した。</p> <p><b>2.CAP子ども向けワークショップの実施</b></p> <p>①中学生向け暴力防止プログラムの実施（1校、2年生） ②小学生向けベーシックプログラムの実施（2校、2年生、4年生）</p> <p>①②実施に先立って、保護者向けワークショップ、教職員向けワークショップを実施 ③児童養護施設「翼」で就学前、およびベーシックプログラムを実施</p> <p><b>3.活動基盤強化</b> 協会スタッフやボランティアスタッフが、CAPおとな向けワークショップ、講師を招いた学習会に参加して理解を深めた。また、地域の学校園の関係者、CAPみしま大阪、協会関係者の中間振り返りを行った。</p>			<p><b>1.CAPおとな向けワークショップの実施</b> ①開催 8回実施 ②目標アウトカム 参加者の78%がCAPを子どもに届けたいとアンケートに回答</p> <p><b>2.CAP子ども向けワークショップの実施</b> ①開催 中学校（2年生4クラス）、小学校（2校、1校は2年生4年生各2クラスで実施。1校は2年生2クラスで実施）、児童養護施設「翼」（就学前、小学校低学年）当初は、可能な学校園から実施と計画していた。 ②目標アウトカム 中学生では受講者の9割以上が「CAPの重要性」に理解を示した。</p> <p><b>3.活動基盤強化</b> ①協会スタッフやボランティアスタッフが、CAPおとな向けワークショップ（2回）、講師を招いた学習会（1回）に参加した。 ②目標アウトカム 協会が呼びかけた中間振り返り（2月）にも地域の学校園の関係者が積極的に参加し、実施後の子どもたちの様子などを意見交換した。ボランティアスタッフも増えた（0人⇒5人）。 *なお、当初予定していた市民向け講演会は、協会事業として5月にオンラインで実施した。 *また、20年9月のおとな向けワークショップを撮影編集して動画として、協会HPに特設コーナーを設けて掲載した。</p>		CAP子ども向けワークショップの実施		
<b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b>			<b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b>		<b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の専門家や実践者と地域の学校園、児童養護施設との連携の作り方など学ぶことにつながった。CAPプログラムを学校園、児童養護施設に届けるにあたり、協会がハブとなり、プログラムを受け入れる側のニーズを把握し、それをCAPみしま大阪に伝え、きめ細かく実施に向けた調整をすることができるようになった。</li> <li>・CAPプログラムを届ける際に学校園、児童養護施設と協会のコミュニケーションがなされた結果、それぞれの課題の把握ができるようになった。</li> <li>・広報活動においても、事業スタート時点でCAPおとな向けワークショップの内容を撮影編集して動画として協会HPに掲載するというこれまでにない取り組みにつながった。</li> <li>・助成金事業から派生して、協会の「まちづくり講座」でも協会事業全体として「子どもの人権」にあてること、人権文化の創造に向けてキーとなる「対話」を重視した事業展開ができるようになった。</li> </ul>			<p>協会がCAPプログラムを地域の学校園、児童養護施設に届けることを通して、地域の子どもの関わる課題（生活困難による不登校の子どもの増加、外国をルーツに持つ子どもたちの生活上の困難、など）が教職員、協会関係者の間で共有されるようになった。</p> <p>望ましい社会状況を達成するための課題として、1点目は、協会の3事業（学習啓発、相談、子どもの居場所）が相互に情報を共有して、それぞれの事業で子どもの課題解決につながる取り組みを行うことである。2点目は、協会、学校園、児童養護施設、市民とのつながりを一層強めて、日常的に情報を共有し、声を掛け合い、子どもの人権を軸にしたコミュニティになっていくことである。3点目は、子どものエンパワメントを図る取り組みを始めること、加えて子どもの支援を接担当する協会職員、スタッフの子どもの人権にかかわる気づき、知識、具体的な支援のスキルを向上していくであり、これらの課題克服するため、今後新たな目標を定め、活動を進化させたい。</p>		この1年間の活動を通じて	<p>地域の小学校（2校）、中学校（1校）、児童養護施設にCAPプログラムを届けること、そのためにきめ細かな調整をすること</p>	を達成しました。
			<b>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</b>				
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市内の子ども園、学校などからCAP事業についての問い合わせがあるなど、事業への関心が高まった</li> <li>・CAPプログラムに参加した子どもや教職員から学んだことを日常的に生かしているという報告が寄せられている。</li> </ul>		